

## 日本財団助成事業 沖縄に農業ブランドを起こすセミナー 「ひきこもりからの旅立ち」報告

日 時：平成24年9月14日（金）午後2時～4時  
会 場：カルチャーリゾートフェストーネ会議室 A・B  
講 師：アイエスエフネットグループ代表 渡邊 幸義 氏  
司 会：NPO法人 ウヤギー沖縄 理事長 近藤 正隆 氏  
参加費：1,000 円  
参加者：30 名

### 講師プロフィール

渡邊 幸義 氏 操業 10 年で株式会社 6 社、社員数 2040 人に育てた IT 企業アイエスエフネットグループの代表。障がい者の雇用創出・就労継続 A 型を持つアイエスエフネットライフ、特例子会社のアイエスエフネットハーモニーは従業員の 70%が障がい者である。時短型在宅勤務を提供するアイエスエフネットケア、障がい者専門の人材紹介を行うジョイコンサルティングなどのほか、NPO 法人 FDA では被災地支援のため福島、宮城、岩手の 3 県に 5 カ所の出先を持っている。本社は東京であるが沖縄にもサービスステーションがあり、今後更に沖縄での事業拡大と雇用創造が期待されている。

### 近藤氏あいさつ

これまでの農業ブランドセミナーと趣向を変えて、わたくしたちの支援するニート・フリーター支援をテーマに据えました。起業によるニート・フリーターの雇用がどのようにしたら可能なのでしょうか。講師はアイエスエフネットグループ代表の渡邊幸義氏です。



同グループでは、ニート・ひきこもりだけでなく、就労困難な方々の「20 大雇用」を掲げ、既にニート、ひきこもり、障がい者、シニア、ワーキングプアなどを積極的に採用し、1 人でも多くの方に「働くことの喜び」や「生き甲斐の発見」をもたらすよう取り組んでいます。私どもが支援しているニート・ひきこもりの中には、必ずしも農業が

向いていない人もいるので、そういう方の支援にも役立つと考えております。

## 渡邊氏公演 ひきこもりからの旅立ち～自立と就労～

### 事例紹介

渡邊氏はまず、障がいやひきこもなど就職困難者の就労には、保護者・福祉・自治体・企業が一体とならないと成功しないと述べ、自身が直近に手掛けたカフェを紹介しました。そのカフェは 90 パーセントが障害者で構成されており、非常におしゃれな雰囲気です。氏によると、お店がパツとしない、もうからない、ださい、など、障がい者を雇うと収益にならないという風潮に抗うためにお金をかけてブランド化したそうです。

障がい者が胸を張って働いているこのカフェは、保護者や支援学校の先生方約 1000 名の協力者があって可能となったということです。彼らがまずはお客となり、人を呼ぶ。このサイクルが盛況につながったということです。現在は、一番おしゃれな立地で、おしゃれに展開したいという思いの下、東京青山、東京駅などでカフェを手掛けているとのこと。



### 5 大採用から 20 大採用へ

渡邊氏は、自らの本業である IT 事業について、世界的に IT 業界は軒並み伸び悩んでいるが、障がい者など (FDM) の雇用を通じて同グループは順調に成長していると述べました。FDM とは FutureDreamMember の略で、障がい者に代わるおしゃれな呼称を採用しているそうです。

渡邊氏は事業展開に当たり、ニート・フリーター、FDM、ワーキングプア、引きこもり、シニアの 5 大採用目標を掲げ、2010 年 2 月に達成、現在は上記 5 つにボーダーライン、DV 被害者、ホームレス、ユニークフェースなど 15 の項目を加えた 20 大採用に向けて事業展開を行っているといいます。



同グループは 20 大雇用の 20 項目に該当される方に対して、この項目や履歴書を理由と

して採用の可否とせず、未来への意識を持った方、同グループの倫理や CSH の習得へ向けて努力をする方を採用するとのことです。渡邊氏は「採用後に人材を育成する、資格を取ってもらう。この間にも 20 万近くの給与を支給する。この採用モデルには信用が核心にあるから成立している」と訴えます。

具体的な採用実績では FDM の方は 218 名が採用され、ニートやフリーターは 500 名以上が採用されました。同氏は 32 歳までフリーターで社会人経験のなかった方採用し、入社 6 年目に約 250 名の部下を束ねる中部エリアの責任者となった事例などを紹介しました。

仕事の内容、業種について同氏は、「営業や製造などの仕事を極限まで細分化すれば、どのような困難を抱えていても仕事ができるようになる。営業でも新規電話営業に限るとか、おしぼりをまとめる作業、ボタンを押すだけの携帯電話の動作チェック、アプリケーションを導入するだけの仕事などがあり、それぞれ収益がある」と述べます。

### 特にひきこもりの採用が難しい

渡邊氏によると、ニートフリーターや FDM に比べて、社会的なつながりを持ってない、また持たないひきこもりの方の採用が難しいと述べ、教育訓練から就労訓練、そして職業教育リハビリと職場体験リハビリを通じて就労に至る、同グループのひきこもり支援の仕組みを紹介しました。そして、2012 年以降は自立支援法に基づく事業を展開するとし、グループ企業に仕事を作ってもらい、賃金の発生する就労移行訓練を地域自治体のサポートを得ながら実現させてゆくと述べました。

最後に渡邊氏は、「ひきこもりの就労は非常に難しい現実。しかしこれは誰かがどうにかしないと社会が成り立たない。ひきこもりは社会の問題です。自分とは無関係ではない。だからこそみんなで立ち上がり解決をしてゆかなければならない」と訴え公演を終えました。

### 質疑応答

40 代男性 障がい者就労支援事業

障がい者に必要となる職業技能で、これから重要となるものなどがあれば教えてください。

渡邊 氏

会社が行う訓練、これは雇用がないと難しい。まず雇用を行う。そして教育を行う。彼らから仕事を買う人が固定されれば、雇用は守られる。ブランディングの仕方が大事だ。とある授産施設が作る「かりんとう」、見た目やイメージがすごく安い。これに「青山」ブランドを結び付けておしゃれに販売をした。6 個 1500 円で販売できる。施設の利益に貢献できる。ブランディングを大事にしたい。